



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

秋田県 北秋田市立阿仁中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック** : 荻原 次晴 先生 (スキー／ノルディック複合) 【出場オリンピック／長野大会】

■ **期 日** : 2022年6月9日(木)

■ **ク ラ ス** : 全学年合同／運動の時間

○ 自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



- ・阿仁中学校が過去オリンピック大会に、スキー／ノルディック複合で3人の選手を輩出したと聞いて驚いた。日本がオリンピック大会で獲得したメダルは、東京2020大会が58個、北京2022冬季大会は18個で、夏、冬競技共に強化が実っている。
- ・運動の時間は、一緒に体を動かし、オリンピックを身近に感じて貰い、オリンピックとはどのような大会なのか等、考えていきたいと授業の目的を伝え、準備体操に移る。

○ 主運動 等



- ・この学校の卒業生で、先生と同じ種目のオリンピックが、本日报道関係者としてオリンピック教室を取材に来てくれたと紹介する。
- ・主運動は滑走リレーを実施(全2回)。班毎に分かれ、片足にモップシューズを履き、もう片方の足は床から離さずに滑る。折り返し地点のコーンを回って戻り、次走者に繋ぐ。2回目は、折り返し地点で、モップシューズを反対の足に履き替えるルールに変更して実施。



- ・運動の時間を振り返り、皆が一生涯懸命に頑張っていたことは「エクセレンス」、仲間で協力し合っていたことは「フレンドシップ」、学年は違ってもお互いに思いやりの気持ちを持って取り組んでいたことは「リスペクト」に当てはまり、オリンピックバリューを感じることができたと思う。座学の時間は、オリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つの価値について、一緒に考えていきたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック** : 荻原 次晴 先生 (スキー／ルディック複合) 【出場オリンピック／長野大会】

■ **期 日** : 2022年6月9日(木)

■ **ク ラ ス** : 全学年合同／座学の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ オリンピックの価値を伝える



・競技映像を見ながら自己紹介を行った後、双子の兄がオリンピックで金メダルを獲得し、その兄に間違われたことがきっかけで、オリンピックを目指した。オリンピックを経験したことによって、自分自身を磨くことや頑張ることの大切さ、仲間やライバル、兄弟、家族が応援してくれたことへの感謝等、沢山のことを学ぶことができた。オリンピックバリューの「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の3つの価値はオリンピックだけのものではなく、学校生活や日常生活の中にあり、皆にも当てはまると伝え、個人ワークに移る。

○個人ワーク ～ グループワーク 等



発問：自分が頑張っていることをオリンピックバリューに当てはめてみよう。

発表：エクセレンス：「部活動でベストを尽くすこと」「趣味である動画づくりや、苦手教科の勉強を頑張ること」等

フレンドシップ：「周りの友達を参考にして成長していくこと」「仲間と協力して試合に勝つことができたこと」「困ったときに助けてくれること」等

リスペクト：「自分の家族や学校の仲間」「先生はお兄さんをリスペクトしていると思う」等



・オリンピックは、順位だけではなくオリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」の気持ちを持って競い合うこと、応援する人たちと一緒に感じたり、お互い理解し合える世界を作ろうという大会。今後、オリンピック大会を観ながら今日伝えたことを思い出し、感じたり、考えてほしい。

・以前に皆と同じ中学生から「強い選手と弱い選手の違いは何か」と聞かれ、「強い選手とは、弱い選手の気持ちを考えられる人、弱い選手の気持ちに寄り添える人、困っていたり辛い思いをしている人に声を掛けられる人」と答えた話。ぜひ、皆も強い人になってほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真



■ 記念品贈呈



■ 修了証贈呈

